

人間性を見極めるに関する実験的検討

— 第一印象はどの程度正確なのか —

○ 榎本美穂・沖美魅・柘植絵里香・富田清香・橋本博文

（安田女子大学心理学部心理学科）

目的

私たちは他者の人間性をどのくらい正確に見極められるのだろうか？これまでに、社会心理学ないし進化心理学の研究領域において、人間性を見極め能力に関する実証的な知見が数多く積み重ねられてきた。本研究の目的は、これらの先行研究を踏まえつつ、従来とは異なる視点（社会的知性としての二種類の見極め能力）から人間性を見極め能力を捉え直すことにある。

一般的信頼と見極め能力 本研究ではまず見極め能力に対する一般的信頼の効果に着目する。山岸（1998）の信頼の解き放ち理論によれば、一般的信頼は人間性を見極め能力と密接に関わっていると予測できる。実際に、山岸らの研究グループは、高信頼者の方が人間性を見極め能力を有する可能性を指摘している（例えば、小杉・山岸、1999）。本研究では、この可能性を踏まえつつ、低信頼者には高信頼者とは異なる見極め能力があるとの仮説を検討する。具体的には、山岸らの議論のとおり、既存の関係に留まる限りは初対面他者の人間性を見極める能力はそれほど必要ではないが、低信頼者には、他者がいかなる人間関係の中に埋め込まれているかという外的な情報をベースに人間性を見極めている（以下、関係性ベースの見極め）可能性を検討する。具体的には、以下に示す実験によって、低信頼者の関係性ベースの見極め能力について検討を加える。

方法①：ビデオクリップの作成

ビデオクリップの動画 本研究では、人間性を見極め能力を測定するために、まずビデオクリップを作成した。実験への参加に同意した安田女子大学の学生6名に対して、友人が同席する場面で絵本（「ふまんがあります」）の最後の章を読み上げてもらい課題に取り組んでもらった。この課題における様子をビデオで撮影し、読み上げている参加者本人のみを切り取った映像（以下、一人映像）と参加者と友人と一緒に映っている映像（二人映像）を動画編集ソフト（Filmora）で作成した。

方法②：ビデオクリップの評定実験

実験参加者 安田女子大学の学生33名（うち3

名はビデオクリップに映っている人物と知り合いであったため分析からは除外した。）

実験手続き 評定者には画面上で6人の動画（一人映像と二人映像の計12パターン）を提示し、動画の人物の性格特性（外向性、協調性、勤勉性、神経症傾向、開放性）について予想させ、回答させた。その後、評価者自身の性格特性や一般的信頼傾向を測定するための質問項目にも回答を求めた。ビデオクリップに映っている人物が回答した性格特性スコアと評定者が予想した性格特性スコアの差を算出し、その差得点を人間性を見極め能力の得点とした。

主要な結果

二人映像を見せると見極めは向上するか？ 性格特性ごとに、一人映像のときと二人映像のときの見極めにちがいが見られるかどうかを分析した結果、性格特性の中でも外向性についてのみ一人条件よりも二人条件において、正しく見極められているという結果を得た（ $t(29)=2.85, p<.01$ ）。

見極め能力と信頼の交互作用効果 一人映像と二人映像における外向性を見極めるの正しさは評定者の一般的信頼傾向と関わっていた。外向性を見極め能力の得点を従属変数、映像の種類（一人映像・二人映像）と評定者の信頼レベル（高信頼・低信頼）を独立変数とする混合要因の分散分析を行ったところ、映像の種類の主効果（ $F(1, 28)=5.21, p<.05$ ）と映像の種類と評定者の信頼レベルの交互作用効果が示された（ $F(1, 28)=5.71, p<.05$ ）。この結果は、低信頼者においてのみ、一人映像よりも二人映像のときの見極めが向上することを示すものであった。

考察

本研究の結果は、二人映像において外向性の性格特性を見極めが向上すること、そしてその向上は低信頼者に顕著に示されることを明らかにしていた。この結果は、低信頼者には関係性ベースの見極め能力があるとの本研究の仮説を部分的に支持する結果である。本研究の結果の頑健性を含め、従来あまり注目されてこなかった関係性ベースの見極めについて詳細な分析が必要である。